

あなたの隣にいる 難民の人たち



中尾 秀一

(アジア福祉教育財団難民事業本部職員、
神戸 YMCA 国際委員長)

この秋、シリアからドイツを目指す難民が急増し大きなニュースとなりましたが、神戸には2,000人を超える難民とご家族が暮らしていることを、皆さんご存じでしょうか。

40年前の1975年4月30日、南ベトナムの首都サイゴンが陥落し、ベトナム戦争が終わりました。5月12日には当時ボートピープルと呼ばれたベトナム難民が初めて日本に上陸します。神戸には1976年7月ノルウェー船に救助されたベトナム難民19人が初めて上陸しています。

当初、日本政府は国土が狭く人口密度も高いなどの理由で、難民の受け入れには消極的で一時的な滞在しか認めませんでした。一時滞在施設で難民を支援している人たちや、国外からの声もあり、1978年定住を認めることを決定します。1979年12月に姫路市に最初の受け入れ施設である定住促進センターが開設され、本格的な定住受け入れが始まりました。2005年に受け入れが終了するまでに、海外の難民キャンプからの第三国定住、家族の呼び寄せ等も含めて、11,319人のインドシナ難民(ベトナム、ラオス、カンボジア)が定住を許可されました。

難民の人たちは定住促進センターで半年間日本語の学習など日本での生活の準備をし、仕事と住まいを紹介されて日本社会に飛び込んでいきました。多くの難民は身体一つで小舟に乗って祖国を脱出しましたので、財産を持ってこられていません。医師であった人も、教師であった人も、その資格を活かせません。難民は財産だけでなく、キャリアもゼロからのスタートになります。日本語教育も4か月のプログラムですので、製造業が中心の就職となりました。そのため、中小の工場が多い、姫路市、神戸市長田区、尼崎市、大阪府八尾市に集住しています。

難民の人たちは、見知らぬ国で、慣れない環境や文化の中で、懸命に働き、子どもたちを育ててきました。昼間は工場で汗を流し、夜は日本語教室で勉強を続ける。パートの仕事をしながら、同胞のためにボランティアに励む。そんな話は珍しくありません。

私が勤務する難民事業本部は、姫路定住促進センターを閉所した1996年に神戸に関西支部を開設し、難民の方たちのアフターケアを続けています。入管や役所での手続き、家庭内の問題、仕事や子どもの教育、健康や医療に関することなど、難民から寄せられる相談は多岐にわたります。難民の人たちの自立が進み、役所での手続きのお手伝いなど、簡単な相談はほとんどなくなりました。でも、難民であるご本人の努力だけでは、どうにもならない相談はなくなりません。

日本語が流暢で、専門的な技術や知識を持っていても、外国人、ということだけで面接を受けられない会社は、まだまだたくさんあります。団地にお住まいの難民の方が多いのは、経済的な理由もありますが、外国人お断りの民間住宅の大家さんがいるからです。

ボートピープル到着の頃75万人だった外国人の数はほぼ3倍となり、各地で多文化共生の取り組みも進んできました。しかし、このような日本社会の閉鎖性が、難民の人たちを生きづらくしている状況は変わっていません。

あなたのすぐそばにいる難民の人たちと、隣人として付き合っていただく。そんなことが難民支援の第一歩であると思っています。

❖ マザースカレッジ公開講座

10月16日(金)、久しぶりに大月ルリ子さんのお話がきける機会であり、詩集『ライラックの枝のクロウタドリ』出版とタイミングが合ったので160人もの参加があった。先生の透きとおるようなお声で数々の詩が神戸教会に響き渡った。ジェイムス・リーブスをはじめ、A.A. ミルン、ウォルター・デ・ラ・メア、R. L. スティーブンスンの詩などなど…その響き、リズム、ことばの一つひとつに聴衆の心が反応し、詩のよるこび、楽しみを一緒に感じられた貴重な1日であった。

これからも子どもたちとともに詩を味わっていききたいという思いも深まり、たっぷり詩の世界にひたって満足だったという声が多くきかれた。(西野 京子)

❖ Peace Bridge (ピース・ブリッジ) 学習会

10月17日(土)の午後「よみがえる最前線～神戸と核と日米同盟」というテーマで学習会を神戸学生青年センターで行なった。講師は毎日放送報道局の坪井兵輔さん。参加者は約60人で、活発な議論が交わされた。以下は参加者(大学生、匿名希望)の感想である。

今日の学習会に参加して、世代間で温度差があると思いました。関心を持つべき若者の多くが無関心でいるのは良くないと、あらためて感じました。

非核神戸方式の話などが出ましたが、会場に広島の被爆者の方がおられたので、今の日本の現状に対して、どう思っておられるのか、率直な意見を聞いてみたかったです。客観的な意見ではなく、主観的な言葉を聞きたいのです。

安保関連法が成立して、私がいま最も不安に思うことは、法律が実際に適用された時のことです。今のままでは、自衛隊員が紛争地で拘束されても国際法上、捕虜の対応がとられない可能性があることなどが心配です。無関心でいられる時代は終わったのだと感じています。

❖ 食から始まるたちつと

9月26日(土)、本館チャペルでホリスティック教育実践研究所所長の金香百合さんの講演会が開催された。まごの手ヘルパー7人を含む20人が参加した。

人は小宇宙としての全体的存在であるというホリスティックな考え方をもとに、食を通して毎日を幸せに

生きるための秘訣を教えてくださいました。私たちは誰でも「力」を内在して生まれてくる。良い環境の「共食」はエンパワーの鍵。「共食」から得られる直接的体験が、人間力・社会力・対話力を培い、人を育てるのだ。くたべて、ちかしくなって、つながって、てをかしあって、ともに生きようというキーワードを指針とした支援の意味と役割、そして、心と身体の栄養に「楽しい共食」がいかに大切かを学んだ。(塩見 洋子)

❖ 世界 YMCA・YWCA 合同祈禱週

今年の世界 YMCA・YWCA 合同祈禱週のテーマは「希望あれ」。世界は無数の悲劇に呻き、苦しみの中にあります。「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。」(コリントの信徒への手紙4章8節～9節)この聖書の言葉に促され、希望を持ち、助けを求める人々を支え続けていけるように祈りました。

祈禱週の11月9日(火)に神戸YWCAで合同礼拝がありました。キリスト教基盤部のメンバーは毎日、同じ時間に集まり、聖書を読み、祈りの時をもちました。(野村 春美)

TASTE THE WORLD

「ネパールを味わいネパールを知る」

11月7日(土)、国際相互支援部主催で、ネパールと難民についての学習会がネパール料理を囲みながら行なわれ、37人の参加者で賑わった。講師に難民事件を多く担当されている伊藤朝日太郎弁護士を迎えた。

クイズに始まり、ネパール情勢、難民の定義、日本における難民問題など、課題をわかりやすく語られた。自国で経済的に困難でなくても、難民に成りうる。難民は、その国に帰れば、政治的その他の理由から迫害を受ける恐れがある人が多い。内戦終結後も、政治的活動をして

いた人たちは危険から逃れることが厳しい。そのような中、必死で国外に脱出してくる。

日本は難民条約加盟国であるが、偽装難民を懸念しすぎか、難民認定率が低い。昨年度は5,000人の申請に対して11人の認定。申請から認定まで審査に平均2～3年かかり、何千人もの生活が不安定なままである。最後に難民問題は、人口問題でなく、人道問題だと言われたことが、印象的だった。

今回、会員外や若い世代の参加者も多かった。難民問題にも



関心が深まり、今後、社会問題への意識もより高まっていくことを期待したい。(松浦 裕子)

日本語学科修了生のラマさんが行っているネパール地震支援募金「愛のかけはし」アピールに、15,881円ご協力をいただきました。感謝申しあげます。(澤村 典子)

シュトウケンイチ チャリティーライブ

～小規模保育所運営のために～



10月17日(土) 夕刻、チャペルにブルースロックの歌声が響いた。神戸YWCAのライブに初登場のシュトウケンイチさん。日本語で歌うオリジナル曲とトム・ウェイツや堺正章のカバー曲なども。

ギターとピアノを使い分ける弾き語りに、ワインやビールが良く合った。

会員に加え、シュトウさんファンの若い女性たちも駆け付け、37人参加で5万余

円のチャリティーを集めることができた。

今回来られなかったというファンの方たちから再演を望まれている。

(亀井 容子)

神戸YWCA 保育園

(仮称)

名称募集

2016年4月に開園する保育園の名称を募集します。

YWCAは、保育だけじゃない。子どもたちも、働きながら子育てするひと、ハッピーに。

温かいぬくもりの中で、子どもたちにのびのびと育てほしい。ステキな名前をお寄せください!

締切: 2016年1月15日まで

◆ 会員の皆さま ◆ 次期運営委員・指名委員 候補者推薦のお願い

成人会員(18歳以上)の中から次年度の運営委員・指名委員候補者の推薦を会員の皆様をお願いいたします。

運営委員の任期は1期2年で連続3期まで再選可能です。

指名委員は任期が1期1年で、成人会員から3人、運営委員から2人が選出され、次年度の運営委員・指名委員候補者を選考します。

(指名委員会)

◆ 2016年度 標語聖句募集

来年度の活動の指針となる聖句を募集しています。メール・FAX・郵送などで1月15日までにお届けください。

被災者支援プロジェクトだよりはお休みです。

◆ ふれあい感謝バザー 2015

恒例の本館バザーが、10月12日(月・祝)に晴天に恵まれ、無事開催された。昨年、台風で中止になった分待ちわびていた人で賑わった。「つどう、つきあう、つながる」をテーマに、会員、ボランティア、地域の人など270人余の参加があった。

このバザーでなければ出会えない掘り出しものや、普段あまり口にしない世界各国の食べものが人気を集め、食堂・喫茶には「平和なコント・パフォーマンス」が時々出没したりして、びっくり。楽しい、物と人と

の出会い・交流の一日だった。

おかげさまで、売り上げ目標額(50万円)もほぼ達成することができた。

(谷合 公江)

バザー協賛企業御芳名

味の素(株)/伊那食品工業(株)/(株) 上野商店/江崎グリコ(株)/エム・シー・シー食品(株)/オリバーソース(株)/鯉節のカネイ(株)/(株) 神戸風月堂/生活協同組合コープこうべ/高嶋酒類食品(株)/林商店(神戸南京町)/持田ヘルスケア(株)/六甲バター(株)

ご協力ありがとうございました。

「みんなで祝うクリスマス、スゝ何事も愛をもって行いなきい(コリントの信徒への手紙16章14節)」の美しいちらしができあがり、クリスマスへの礼拝案内を会員と私たちの活動を支えてくださる方宛に発送した。世界YMCA/YWCA合同祈禱週の礼拝と、世界共通のプログラムに沿って礼拝後の「静まりの時」をもった。その後の発送作業は、「トライやるウィーク」で神戸YWCAに来ていた中学生4人と共同作業で、ワイワイがやがや楽しいひと時となった。

敗戦の日から70年目の今年のクリスマスは、私にとっても小学校2年生の日から続いた70回目のクリスマスで、来し方を振り返って感慨深い時を過ごしている。

初めて教会で迎えたクリスマスは、敗戦の年のことであり、思い出す程のことが殆ど無くちよつと寂しいが、4年生のちよつと今頃であつたか、牧師夫人がオルガンを弾いて讃美歌を教えてくださいました。

美しいクリスマス曲が嬉しく、一生懸命歌っていると優しい声で「綺麗な声をしてるね」と言ってくれました。それまで歌うことに自信がなかった私は、大きな声で歌う楽しさを教えていただいたと思つた。

その日から今日まで綺麗でも上手でもないけれど、歌うことが大好き人間になれた70年を感謝するばかりです。

(柴田 富士子)



「みんなで祝うクリスマス、スゝ何事も愛をもって行いなきい(コリントの信徒への手紙16章14節)」の美しいちらしができあがり、クリスマスへの礼拝案内を会員と私たちの活動を支えてくださる方宛に発送した。世界YMCA/YWCA合同祈禱週の礼拝と、世界共通のプログラムに沿って礼拝後の「静まりの時」をもった。その後の発送作業は、「トライやるウィーク」で神戸YWCAに来ていた中学生4人と共同作業で、ワイワイがやがや楽しいひと時となった。

神戸YWCAへのおさそい

●わいわい科学クラブ (小学生対象)

「コイル・モーターをまわそう」
12月19日(土) *事前申し込みが必要です。
①10時~11時30分②13時~14時30分(2部制)
参加費 1回200円

「鉄粉で<カイロと花火>をつくろう」
1月23日(土)①10時~11時15分②11時45分~13時③13時30分~14時45分(3部制)
場所 神戸YWCA分室
参加費 1回200円

●文学講座

『徒然草』を読む
12月15日(火)・1月19日(火)
13時30分~15時30分
講師 笠原芳光さん(京都精華大学名誉教授)
参加費 1,500円(1回)

(注) 場所の記載のないものはすべて神戸YWCA 会館

●現代史勉強会もつる

「安倍政権を“透視”せよ!
—なんでこんな政治状況になってきているの??—」
12月11日(金)13時30分~16時
講師 佐治孝典さん(近代日本思想史研究者)
参加費 800円(一般)、500円(若者)

●「ある精肉店のはなし」上映会と監督講演

1月30日(土)①11時~12時50分(上映のみ)
②13時30分~15時20分(上映)/15時30分~16時20分(瀧瀬あや監督のお話と質疑応答)
入場料 1,000円(各回入替制、①の上映券で15:30~の監督講演に入場可) 定員 各回50人

●どーなってるの、今の日本!?! Vol.2

「マイナンバー制度について」
12月18日(金)18:00~20:00
*アドベントのアフタヌーン・ティーは、事情により中止いたします。

クリスマス募金のお願い

神戸YWCAの働きに加えて、私たちが思いを連ねる諸団体の活動のために用いる予定です。皆さまのご協力を心からお願いいたします。

室で開催し、のべ12人が参加した。(大江 雅子)

●運営委員会報告

(10月)【報告】理事会報告
▶活動報告と予告【議事】会員活動をつなぐ・ひろげる方策▶組織改革検討(企画講座、定期会員集会へ向けての準備)
▶3市YWCA交流会。(野村 春美)

●理事会報告

11月7日(土)第3回理事会開催。長期借入金について決議。(寺内 真子)

●新入会員

塩見 洋子(敬称略)

●賛助員

井上 早苗 上 紀子
大前 崇介 丸山 春子
株式会社サンビルダー(敬称略)

●編集後記

「当たり前の日々が当たり前にならないうちに」。TVCMですが、胸にしみます。(K・S)

冬季休館日：2015年12月25日(金)、29日(火)~2016年1月5日(火)

●学院だより

日本語コースでは、9月25日から3か月、委託訓練「日本語・就業カスキルアップコース」で15人が就業に向けて日本語、ITを中心に学んでいる。10月12日のバザーでは受講生やはっぴーすくーの子どもたちが屋上で自国の料理を販売した。賀川記念館等でやさしい日本語クラス(文化庁委託事業)を開講。また、中央区赤い羽根地域づくり助成金を受け、やさしい日本語冊子作りにも取り組む。12月1日からは「共感寄付」で来年夏の子どものためのクラスのために寄付を募る。

(原田 雅子)

●まごの手だより

まごの手では、障害福祉サービスで同行援護、ガイドサービスを行なっている。

光を感じたことのない彼とは布引の雄滝茶屋まで2時間の楽しい散歩をしている。滝や水の流れの音、鳥や虫の声、風のささやきに耳を傾け、徳光院ではその静寂の底に身を沈め心も体もリフレッシュする。

そんな散歩に「トライやるウィーク」で中学生と一緒にすることになった。ワイワイガヤガヤいっばい話をして、また彼もサプライズで「いい声」の出るレッスンを少ししてくれ、楽しい時間を過ごした。

障害をもつ人は近寄り難い

特別な人ではなく、彼の場合は眼からの情報を得るのが苦手なだけの普通の人だということ、体で感じてくれた。困っている人がいるとき「お手伝いしましょうか」と声をかけられるちょっとした勇気を持ってもらえればと思う。(島村 正)

●分室だより

分室にAED(自動体外式除細動器)が設置された。AEDは、突然の心停止を起こして倒れた人に、電気ショックで心臓の状態を正常に戻す機能をもった器械である。

このAEDの使い方を正しく把握するために、11月6日と9日に市民救命士講習会を分

◆ 青年のつどい 19時30分~20時30分
<http://www.kobeywca.org/shimixmas/>

◆ 祈りと祝福のとき 18時~

◆ ほっとタイム 17時~

◆ 子どもプログラム 17時~

◆ キャロリング 17時~
(北野コース・元町コース)

◆ 心あたたまるクリスマス 12月11日(金) 17時~21時30分
日時 12月11日(金) 17時~21時30分
場所 日本キリスト教団 神戸教会
入場無料
どなたでもご参加いただけます。

神戸YWCA
みんなで祝う
クリスマス

日時 12月5日(土)
13時30分~15時30分
場所 神戸YWCA会館
参加費 500円

◆ お話 入佐 明美 さん
(大阪建設労働者生活相談室 ボランティアアケースワーカー)

◆ ティータイム

◆ クリスマスマーケット
キーやクリスマスカードなど

◆ 第57回神戸市民クリスマス
キャロリング in K O B E



ゴーフル®

いいものは時代をこえて
生き続けます

神戸且月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 TEL(078)321-5555
URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>



(有) 佐野葬祭

代表取締役 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)

0120-592-392 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

尼崎市潮江4丁目2-2
URL: <http://sanosousai.com>